

## 第 459 回集談会

1. 日時：2015 年 1 月 19 日（月）16:30～
2. 場所：2A 講義棟（中央棟 2 階）
3. 座長：機能形態学教室 准教授 溝口広一先生（内線 3709）
4. 演者：病態生理学教室 助教 河野 資先生（内線 3716）
5. 演題：「精神的ストレスによる免疫寛容の抑制と喘息の病態発症」
6. 要旨：近年、我が国を始め先進国での気管支喘息患者の増加が問題となっている。喘息は環境要因と遺伝要因の相互作用により発症すると考えられている。環境要因の 1 つである精神的ストレスは、喘息患者増加の背景として注目されている。しかしながら、精神的ストレスによって喘息発症に至るまでの詳細なメカニズムは不明である。

気管支喘息は慢性炎症性疾患であり、2 型ヘルパー T (Th2) 細胞反応優位の免疫応答により惹起される。喘息患者の気道においては、Th2 細胞とともに、Th2 サイトカインにより誘導される好酸球の集積・活性化が認められる。一方、ダニなどの無害な抗原に対する過剰な免疫反応を抑制する機構として免疫寛容が存在し、この獲得、維持に重要な働きをしているのが寛容誘導性樹状細胞と、それにより分化誘導される制御性 T 細胞 (Treg) である。喘息患者における Th2 免疫応答亢進の原因として、Treg の質、量の減少による免疫寛容の低下が示唆されている。

本集談会では、気管支喘息の病態発症における、免疫寛容の不調とストレスの関係について、喘息マウスモデルによる研究結果を紹介させて頂く。